

地域創生専攻 学生証・資料等配布

日時：2026年4月7日(火) 13:00～13:30

場所：学生センターA棟1階 学生控室

専攻全体のオリエンテーションは行いませんので、HP掲載資料及び上記配布資料を確認してください。
上記日時に受け取りに来られない場合は、下記窓口まで受け取りに来てください。

学生センターA棟1階 4番窓口



地域創生専攻の以下プログラムでは、プログラム毎のオリエンテーションを実施します。
その他のプログラムについては、各主任指導教員の指示に従ってください。

高度農林業プログラム

日時：4月9日(木) 10:00～11:00

場所：農学部2号館1階 2号会議室

建物No：B03

金型・鋳造プログラム

日時：4月7日(火) 15:00～

場所：地域共同研究棟 218室

建物No：C15

社会基盤・環境工学プログラム

日時：4月8日(水) 13:30～14:00

場所：理工学部6号館 301室

建物No：C22

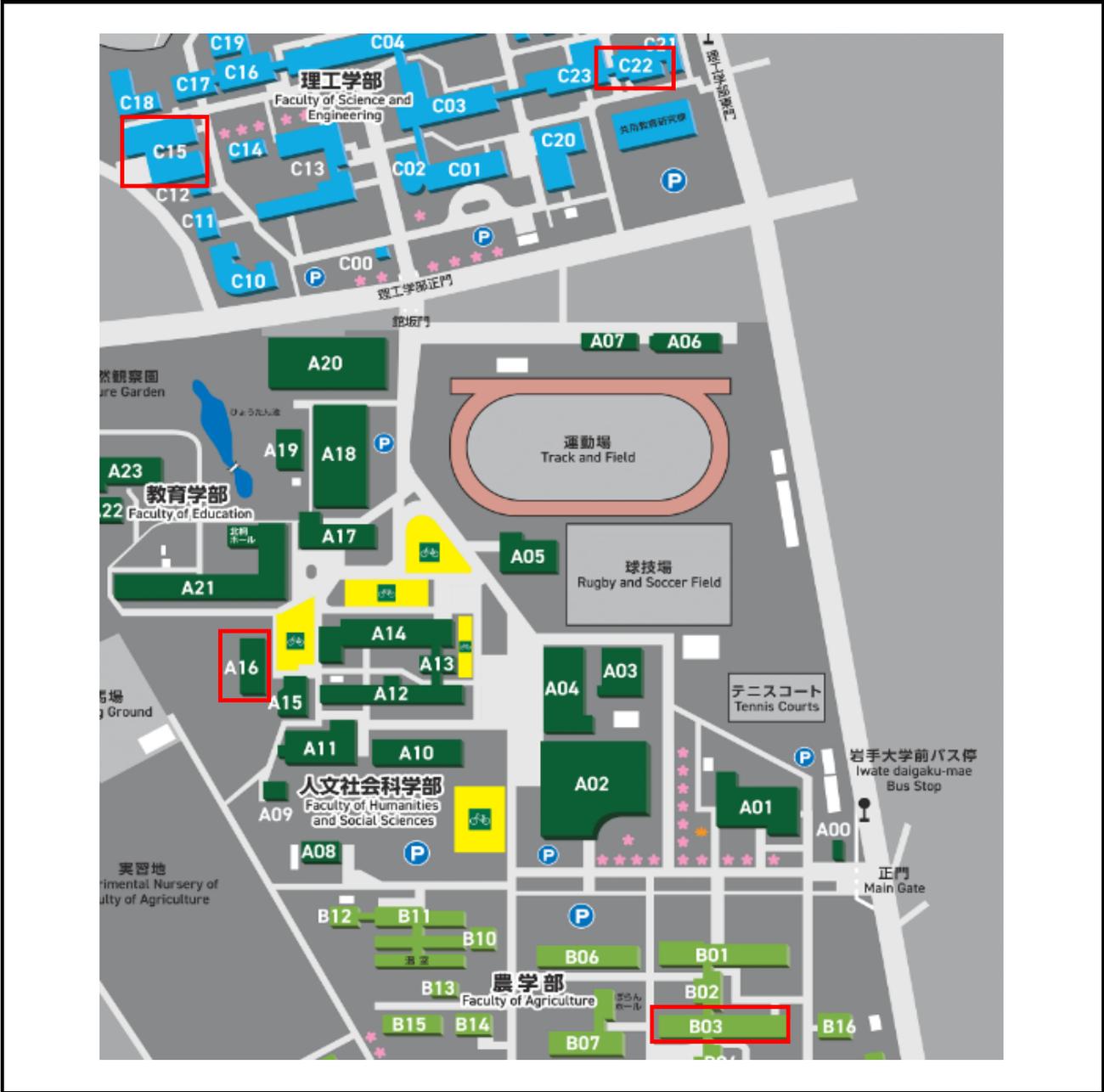
臨床心理学プログラム

日時：4月8日(水) 15:00～

場所：人文社会科学部2号館1階 プレイルーム2

建物No：A16

場所案内地図



2026年度4月 地域創生専攻オリエンテーション資料

地域創生専攻入学者の皆さんへ

この資料には、地域創生専攻所属学生に共通する事項や専攻共通科目の履修方法等について、記載しています。専攻共通科目については、書類の提出期限等を確認のうえ、主任指導教員とも相談のうえ、受講を進めてください。

【目次】

1. 地域創生専攻長メッセージ	P 1
2. 地域創生専攻のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー	P 2
3. 地域創生専攻の修了要件単位数について（大学院学生便覧抜粋）	P 8
4. グローバルコミュニケーション（必修・1単位）の受講について	P16
5. インターンシップ科目（選択必修・1～2単位）の受講について	P22
6. オープンセミナー（選択必修・1単位）の実施について	P33
7. アウトリーチセミナー（必修・1単位）の受講について	P43

防災・まちづくりプログラム1年制コース所属の場合は、

- ・グローバルコミュニケーション：選択必修
- ・インターンシップ：無し
- ・オープンセミナー：無し
- ・アウトリーチセミナー：選択必修

ですのでご注意ください。
詳細は、大学院学生便覧を確認してください。

【本資料についての問い合わせ先】

岩手大学学務部学務課
専門教育グループ
学生センターA棟 4番窓口
TEL：019-621-6307
E-mail：gsenko@iwate-u.ac.jp

地域創生専攻 新入生の皆様へ

地域創生専攻 専攻長 南 正昭

“地域創生”に向けて

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。

日本が近代化を進めるに当たって、ここ岩手における国土開発は、厳しい寒冷地としての自然環境と度重なる災害を克服し、生業を築きあげ健康な生活を実現することにほかなりませんでした。

1902年、岩手大学は当初盛岡高等農林学校として、北方寒冷地の農業振興や農業技術の革新を主な目的として設置されています。初代校長の玉利喜造（1856～1931年）は、緊急研究課題として、北方寒冷地である東北地方における冷害凶作の克服、および寒冷地に適した農業法の開発を掲げました。

ここに学んだ学生の一人に、宮沢賢治（1896～1933年）がいました。賢治は、明治三陸大津波が来襲した1896年に生まれ、昭和三陸大津波が来襲した1933年にその生涯を閉じています。1923年、今から100余年前に関東大震災が発生しています。賢治は、盛岡高等農林学校に学んだ後、多くの文学作品を著すとともに、自ら百姓になって、農業指導を行い、「世界がぜんたい幸福にならないうちは個人の幸福はあり得ない」と農民芸術を実践していきました。

1947年、今から三四半世紀前に、岩手県の初の民選知事となった国分謙吉（1878～1958年）は、若い頃から自ら農場を拓き試験場を創立し、この寒冷な土地の特性に即して研究した独自の農法を開発し、食料増産に向けての道を切り拓いたことで知られています。国分の知事当選の数か月後にはカスリン台風、その翌年1948年にはアイオン台風が来襲しています。ただでは起きませんでした。今はよく知られる岩手でのブドウ栽培、ワイン醸造は、これらの台風による甚大な被災からの復興策として、国分が提案し実現されてきたものです。

寒冷地の厳しい自然、度重なる自然災害に遭いながらも、それらを受け止め、また乗り越えるべく、地域創生への取り組みは、これまで幾度となく繰り返されてきました。今、皆さんの目の前に広がるこの美しい自然景観と街並み、健やかな暮らしの風景は、その営みの上に結晶化したものといえるでしょう。

2011年3月11日、東日本大震災が発生し、沿岸部を中心に大きな津波被害を受け、その後の復興は今も続いています。岩手大学大学院総合科学研究科地域創生専攻は、この未曾有の大災害からの復興の真っ只中、地域の未来の創造に資するべく、2017年4月に設置されました。地域産業の振興、安全安心なまちづくり、人の心身の健康を3本柱とし、新たな地域創生に向けた教育研究が進められています。

未来を担う皆さんの積極的な参画を期待しています。

地域創生専攻のディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシー

ディプロマ・ポリシー	カリキュラム・ポリシー
<p>総合科学研究科</p> <p>各専門分野に関する深い知識および能力を有するとともに、課題解決に必要な高度の分析力、論理的思考力を修得している。</p> <p>文理の枠を超えた総合的視野をもって新たな価値を創造し、持続可能な社会の実現に向けて地域社会や地球規模の課題解決に貢献するための素養が培われている。</p> <p>地域社会が抱える諸問題を把握し、その解決に自らの専門性を活かそうとする態度を有している。</p>	<p>総合科学研究科</p> <p>本研究科は、研究科及び専攻の教育上の目的を達成するために必要な授業科目を開設するとともに、学位論文の作成等に対する指導計画を策定し、体系的な教育課程を編成する。</p> <p>成績評価</p> <p>成績評価は、大学院成績評価基準に基づき行い、試験、レポート、研究報告、論文及び平常の成績等により成績を判定する。</p>
<p>地域創生専攻では、所定の課程を修了し、次項並びに各コース・プログラムで定める学位授与の方針に該当する者に学位を授与する。</p> <p>(情報分析力・語学力・コミュニケーション力等の汎用的能力)</p> <p>問題解決に向けて主体的に行動する実践力と、多様な人間と協働できるコミュニケーション能力を修得している。</p> <p>(研究成果の発表等)</p> <p>地域問題解決の研究成果を国内外に発信する能力を修得している。</p>	<p>地域創生専攻では、専攻の学位授与の方針に対応して、総合的・俯瞰的な視野を養うための研究科共通科目や他者との協働ができる素養を身につけるための専攻共通科目に加え、地域課題に主体的に取り組む専門性や応用力を養うためのコース共通科目及びプログラム科目を編成している。</p> <p>(情報分析力・語学力・コミュニケーション力等の汎用的能力)</p> <p>問題解決に向けて主体的に行動する実践力を養うために、専攻共通科目に「地域インターシップ」「国際インターンシップ」などの実践的科目を、多様な人間と協働する能力を養うためにグループワークを基本とする「オープンセミナー」等を配置している。</p> <p>(研究成果の発表等)</p> <p>研究の成果を、外国語も含めて口頭、論述等で論理的に的確に発信・説明できる能力を修得できるように、専攻共通科目に「アウトリーチセミナー」「グローバルコミュニケーション」「オープンセミナー」を、研究科共通科目に「技法知科目」配置している。</p>

<p>(社会への貢献) 地域創生を先導し、地域社会の持続的発展に強く貢献しようとする態度を身につけている。</p>	<p>(社会への貢献) 地域創生を先導し、地域の持続的発展に貢献する意識を涵養させるため、研究科共通科目の「地域創生特論」に加えて、専攻共通科目に「地域インターンシップ」「アウトリーチセミナー」を配置している。</p>
<p>コースのディプロマ・ポリシー (専門性に基づいた問題解決能力) 自らの専門性(以下に掲げるコースごとの方針)に基づき、地域創生に関する諸課題を発見・解決する能力を有する。</p> <p>(1) 地域産業コース 地域産業全般に関する総合的な知識と理解を有している。</p> <p>(2) 地域・コミュニティデザインコース 地域・コミュニティデザインに関する学際的な知識と理解を有している。</p> <p>(3) 人間健康科学コース 人間健康科学に関する総合的な知識と理解を有している。</p>	<p>コースのカリキュラム・ポリシー (専門性に基づいた問題解決能力) 自らの専門性に基づき、地域創生に関する諸課題を発見・解決する能力を養うため、コース共通科目を配置する。 (各コースの方針は以下のとおり)</p> <p>(1) 地域産業コース 地域産業全般に関する総合的な知識と理解を得ることによって、自らの専門性を多面的に捉え、より適切に地域創生に活かすことができるように、コース共通科目(地域産業総合演習)を配置するとともに、融合型科目(複数教員で実施)を配置している。</p> <p>(2) 地域・コミュニティデザインコース 地域・コミュニティデザインに関する学際的な知識と理解を得ることによって、多角的な視野から地域創生に活かすことができるように、コース共通科目(地域・コミュニティデザイン総合演習)を配置するとともに、融合型科目(複数教員で実施)を配置している。</p> <p>(3) 人間健康科学コース 人間健康科学に関する総合的な知識と理解をもつことによって自らの専門性を相対的に深化させ、これを地域創生に活かすことができるように、コース共通科目(人間健康科学総合演習)を配置するとともに、融合型科目(複数教員で実施)を配置している。</p>

<p>プログラムのディプロマ・ポリシー</p> <p>(1) 地域産業コース 地域社会における諸問題に対応できるよう、プログラム毎に次に掲げる専門分野に関する深い専門性を修得している。</p> <p>1) 高度農林業プログラム (専門分野の基礎的な知識) 農業あるいは林業分野に関する深い専門知識を修得している。 (専門分野の応用的な知識) 農業あるいは林業分野に関する社会の要請に応えるための実践的な専門知識と応用能力を修得している。</p> <p>2) 水産業革新プログラム (専門分野の基礎的な知識) 水産システム学を構成する一連の基幹分野(生産、加工、流通)に関する深い専門知識を修得している。 (専門分野の応用的な知識) 水産システム学に係る基幹分野について先端研究などの主体的な探求を通して、問題解決のための実践的な専門知識と応用能力を修得している。</p> <p>3) 金型・鋳造プログラム (専門分野の基礎的な知識) 金型・鋳造分野に関する深い専門知識を修得している。</p> <p>(専門分野の応用的な知識) 金型・鋳造分野に関する基礎知識を活用して、産業の発展に貢献できる実践的な専門知識と応用能力を修得している。</p>	<p>プログラムのカリキュラム・ポリシー</p> <p>(1) 地域産業コース プログラム毎の専門分野に関する深い専門性を通して地域社会における諸問題に対応できるように、プログラム専門科目を編成している。</p> <p>1) 高度農林業プログラム (専門分野の基礎的な知識) 農業および林業分野に係る高度なプログラム専門科目を編成している。 (専門分野の応用的な知識) 専門分野について、より幅広く、かつ、深く学ぶための高度専門領域に関する科目を配置している。</p> <p>2) 水産業革新プログラム (専門分野の基礎的な知識) 水産業分野に係る一連の過程を俯瞰できる高度なプログラム専門科目を編成している。</p> <p>(専門分野の応用的な知識) 各講義科目を踏まえて、学生の主体性に基づいた探求・議論活動を通して、問題解決に向けた実践力を醸成するための演習科目を配置している。</p> <p>3) 金型・鋳造プログラム (専門分野の基礎的な知識) 金型・鋳造分野に係る高度な専門科目(実習科目を含む)を編成している。 基礎的な経営概念について修得できるように、品質工学特論等のMOT科目を編成している。</p> <p>(専門分野の応用的な知識) 金型・鋳造分野の地域産業が抱える諸問題を解決する実践的な専門科目(特別研究等)を配置している。</p>
--	---

<p>4) 地域経済総合プログラム (専門分野の基礎的な知識) 経済学・経営学及び企業法学に関する深い専門知識を修得している。</p> <p>(専門分野の応用的な知識) 経済学・経営学及び企業法学に関する実践的な専門知識と応用能力を修得している。</p> <p>(2) 地域・コミュニティデザインコース 地域社会における諸問題に対応できるよう、プログラム毎に次に掲げる専門分野に関する深い専門性を修得している。</p> <p>1) 地域マネジメントプログラム (専門分野の基礎的な知識) 法学あるいは環境分野に関する深い専門知識を修得している。</p> <p>(専門分野の応用的な知識) 地域社会で現実に生ずる、法的あるいは環境に関する諸問題を解決できる実践的な専門知識と応用能力を修得している。</p> <p>2) 防災・まちづくりプログラム (専門分野の基礎的な知識) 防災・まちづくり分野(学際分野)に関する深い専門知識を修得している。</p> <p>(専門分野の応用的な知識) 防災・まちづくり分野(学際分野)に関する実践的な専門知識と応用能力を修得している。</p>	<p>4) 地域経済総合プログラム (専門分野の基礎的な知識) 経済学・経営学および企業法学に係る高度なプログラム専門科目を編成している。 地域経済が抱える諸問題を多角的・総合的に捉える能力を修得するための科目を配置している。</p> <p>(専門分野の応用的な知識) 経済学・経営学及び企業法学に関する実践的なプログラム専門科目を編成している。</p> <p>(2) 地域・コミュニティデザインコース プログラム毎の専門分野に関する深い専門性を通して地域社会における諸問題に対応できるように、プログラム専門科目を編成している。</p> <p>1) 地域マネジメントプログラム (専門分野の基礎的な知識) 法学および環境分野に係る高度なプログラム専門科目を編成している。 法学と環境学との架橋を図る科目を配置している。</p> <p>(専門分野の応用的な知識) 各プログラム科目のうち、受講生が主体となり、自らが問題の所在を把握し、それに対する妥当な解決策を提示することを主眼とした「演習科目」(例: 法特別演習、政策特別演習など)を配置している。</p> <p>2) 防災・まちづくりプログラム (専門分野の基礎的な知識) 防災・まちづくり分野(学際分野)に係る高度なプログラム専門科目を編成している。 周辺分野の知識を身につけて多面的な捉え方を修得するため、工学系の基礎科目を配置している。</p> <p>(専門分野の応用的な知識) 防災・まちづくり分野(学際分野)に係る応用的なプログラム専門科目を編成している。</p>
--	---

<p>3) 社会基盤・環境工学プログラム (専門分野の基礎的な知識) 社会基盤及び環境工学分野に関する深い専門知識を修得している。</p> <p>(専門分野の応用的な知識) 社会基盤及び環境工学分野に関する実践的な専門知識と応用能力を修得している。</p> <p>(3) 人間健康科学コース 地域社会における諸問題に対応できるよう、プログラム毎に次に掲げる専門分野に関する深い専門性を修得している。</p> <p>1) 行動科学プログラム (専門分野の基礎的な知識) 行動科学分野に関する深い専門知識を修得している。</p> <p>(専門分野の応用的な知識) 行動科学分野に関する実践的な専門知識と応用能力を修得している。</p> <p>2) 臨床心理学プログラム (専門分野の基礎的な知識) 臨床心理学に関する深い専門知識を修得している。</p> <p>(専門分野の応用的な知識) 臨床心理学に関する実践的な専門知識と応用能力を修得している。</p>	<p>3) 社会基盤・環境工学プログラム (専門分野の基礎的な知識) 社会基盤および環境工学分野に係る高度なプログラム専門科目を編成している。</p> <p>(専門分野の応用的な知識) 社会基盤および環境工学分野に係る応用的なプログラム専門科目を編成している。</p> <p>(3) 人間健康科学コース プログラム毎の専門分野に関する深い専門性を通して地域社会における諸問題に対応できるように、プログラム専門科目を編成している。</p> <p>1) 行動科学プログラム (専門分野の基礎的な知識) 心理学・社会学を中核とする行動科学分野に係る高度なプログラム専門科目を編成している。</p> <p>(専門分野の応用的な知識) 隣接領域の知識によって、学際的に人間行動を検討する能力を身につけさせるための科目を配置している。</p> <p>地域社会における諸問題に対して、行動科学分野の知識を反映させて検討する能力を身につけさせるため、演習をはじめとしたプログラム専門科目を編成している。</p> <p>2) 臨床心理学プログラム (専門分野の基礎的な知識) 臨床心理学に係る高度なプログラム専門科目を編成している。</p> <p>(専門分野の応用的な知識) 臨床心理学に係る実践的なプログラム専門科目を編成している。</p>
--	--

<p>3) スポーツ健康科学プログラム (専門分野の基礎的な知識) スポーツ科学及び健康科学に関する深い専門知識を修得している。</p> <p>(専門分野の応用的な知識) スポーツ科学及び健康科学に関する実践的な専門知識と応用能力を修得している。</p>	<p>3) スポーツ健康科学プログラム (専門分野の基礎的な知識) スポーツ科学および健康科学に係る高度なプログラム専門科目を編成している。</p> <p>(専門分野の応用的な知識) スポーツ科学及び健康科学の実践的なプログラム専門科目を編成している。</p>
---	--

6. 地域創生専攻の修了要件単位数について

地域創生専攻の修了要件単位数は、授業科目について以下のとおり修得する必要がある。
 ここでは、地域創生専攻の修了要件単位数、各プログラムの修了要件単位数の詳細を記載する。

1) 修了要件単位数

		地域産業コース 地域・コミュニティデザイン コース(防災・まちづくりプログラム1年制コースを除く)	人間健康科学コース			
			地域・コミュニティデザイン コース(防災・まちづくりプログラム1年制コース)	行動科学プログラム スポーツ健康科学プログラム	臨床心理学プログラム	
		修得すべき単位数	修得すべき単位数	修得すべき単位数	修得すべき単位数	
研究科共通科目	総合科学科目					
	震災復興・地域創生	地域創生・産業振興特論、地域防災学特論、地域文化特論、総合科学特論Ⅰ(留学生対象)	1単位	1単位	1単位	1単位
	イノベーション	物質機能創成特論、システム創成特論、先端生命科学特論、情報通信技術実践特論、総合科学特論Ⅱ(留学生対象)	1単位	1単位	1単位	1単位
	グローバル	多文化共生特論、グローバルエネルギー特論、グローバル環境科学特論、総合科学特論Ⅲ(留学生対象)	1単位	1単位	1単位	1単位
	技法知科目	アカデミック英語(A2-LSRW)、アカデミック英語(B1-LS)、アカデミック英語(B1-RW)、アカデミック英語(B2-LS)、アカデミック英語(B2-RW)、アカデミック日本語(A1)、アカデミック日本語(A2)、アカデミック日本語(B1)、アカデミック日本語(B2)、アカデミック日本語(C)	左記以外に2単位	左記以外に2単位	左記以外に2単位	
	専攻共通科目	地域インターンシップⅠ、地域インターンシップⅡ、国際インターンシップ、グローバルコミュニケーション、アウトリーチセミナー、オープンセミナー	3単位	1単位	3単位	2単位
小計			8単位	6単位	8単位	5単位
コース共通科目			2単位	2単位	4単位	4単位
プログラム科目			22単位	22単位	22単位	34単位
計			32単位	30単位	34単位	43単位

※詳細は、2) 各プログラム修了要件単位数一覧で確認すること。

1. 研究科共通科目総合科目の履修について

「震災復興・地域創生」から1単位以上、「イノベーション」から1単位以上、「グローバル」から1単位以上修得すること。

2. 修得すべき単位数

1) 研究科共通科目、専攻共通科目

8単位以上修得すること。ただし、地域・コミュニティデザインコース(防災・まちづくりプログラム1年制コース)は6単位以上、人間健康科学コース(臨床心理学プログラム)は5単位以上修得すること。

2) コース共通科目

地域産業コース及び地域・コミュニティデザインコースは2単位、人間健康科学コースは4単位修得すること。

3) プログラム科目

22単位以上修得すること。ただし、人間健康科学コース(臨床心理学プログラム)は34単位以上修得すること。

3. 専攻共通科目の履修について

1) グローバルコミュニケーション及びアウトリーチセミナーは必修とする。ただし、地域・コミュニティデザインコース(防災・まちづくりプログラム1年制コース)では選択必修とする。

2) 地域産業コース、地域・コミュニティデザインコース(防災・まちづくりプログラム1年制コースを除く)及び人間健康科学コース(臨床心理学プログラムを除く)では、地域インターンシップⅠ、地域インターンシップⅡ、国際インターンシップ及びオープンセミナーの4科目から1科目選択必修とする。

2) 各プログラム修了要件単位数一覧

地域産業コース 高度農林業プログラム

科目区分		授業科目	必要単位数		
			必修	選択	
研究 科学 科目 共通 科目	総合	震災復興・地域創生	地域創生・産業振興特論、地域防災学特論、地域文化特論、総合科学特論Ⅰ（留学生対象）	1	2
	科学	イノベーション	物質機能創成特論、システム創成特論、先端生命科学特論、情報通信技術実践特論、総合科学特論Ⅱ（留学生対象）	1	
	科目	グローバル	多文化共生特論、グローバルエネルギー特論、グローバル環境科学特論、総合科学特論Ⅲ（留学生対象）	1	
	共通	技法知科目	アカデミック英語（A2-LSRW）、アカデミック英語（B1-LS）、アカデミック英語（B1-RW）、アカデミック英語（B2-LS）、アカデミック英語（B2-RW）、アカデミック日本語（A1）、アカデミック日本語（A2）、アカデミック日本語（B1）、アカデミック日本語（B2）、アカデミック日本語（C）		
専攻 共通 科目			グローバルコミュニケーション（必修）	1	*1
			アウトリーチセミナー（必修）	1	
			地域インターンシップⅠ、地域インターンシップⅡ、国際インターンシップ、オープンセミナー	1	
小計				8	
コース 共通 科目			地域産業総合演習（必修）	2	
			地域振興特論 *2		
小計				2	
プログラム 科目			プログラム科目		14
			高度農林業特別研究（必修）	8	
小計				22	
合計				32	

*1 2単位科目（地域インターンシップⅡ及び国際インターンシップ）については、必修と選択に1単位ずつ充当できる。

*2 地域振興特論（2単位）は、プログラム科目単位として充当できる。

地域産業コース 水産業革新プログラム

科目区分		授業科目	必要単位数		
			必修	選択	
研究 科学 科目 共通 科目	総合	震災復興・地域創生	地域創生・産業振興特論、地域防災学特論、地域文化特論、総合科学特論Ⅰ（留学生対象）	1	2
	科学	イノベーション	物質機能創成特論、システム創成特論、先端生命科学特論、情報通信技術実践特論、総合科学特論Ⅱ（留学生対象）	1	
	科目	グローバル	多文化共生特論、グローバルエネルギー特論、グローバル環境科学特論、総合科学特論Ⅲ（留学生対象）	1	
	共通	技法知科目	アカデミック英語（A2-LSRW）、アカデミック英語（B1-LS）、アカデミック英語（B1-RW）、アカデミック英語（B2-LS）、アカデミック英語（B2-RW）、アカデミック日本語（A1）、アカデミック日本語（A2）、アカデミック日本語（B1）、アカデミック日本語（B2）、アカデミック日本語（C）		
専攻 共通 科目			グローバルコミュニケーション（必修）	1	*1
			アウトリーチセミナー（必修）	1	
			地域インターンシップⅠ、地域インターンシップⅡ、国際インターンシップ、オープンセミナー	1	
小計				8	
コース 共通 科目			地域産業総合演習（必修）	2	
			地域振興特論 *2		
小計				2	
プログラム 科目			水産システム学特論（必修）	2	12
			プログラム科目		
			水産業革新特別研究（必修）	8	
小計				22	
合計				32	

*1 2単位科目（地域インターンシップⅡ及び国際インターンシップ）については、必修と選択に1単位ずつ充当できる。

*2 地域振興特論（2単位）は、プログラム科目単位として充当できる。

地域産業コース 金型・鋳造プログラム

科目区分		授業科目	必要単位数	
			必修	選択
研究 科学 科目 共通 科目	総合	震災復興・地域創生	1	2
	イノベーション	物質機能創成特論、システム創成特論、先端生命科学特論、 情報通信技術実践特論、総合科学特論Ⅱ（留学生対象）	1	
	グローバル	多文化共生特論、グローバルエネルギー特論、 グローバル環境科学特論、総合科学特論Ⅲ（留学生対象）	1	
専攻 共通 科目	技法知科目	アカデミック英語（A2-LSRW）、アカデミック英語（B1-LS）、アカデ ミック英語（B1-RW）、アカデミック英語（B2-LS）、アカデミック英語 （B2-RW）、アカデミック日本語（A1）、アカデミック日本語（A2）、 アカデミック日本語（B1）、アカデミック日本語（B2）、アカデミック日 本語（C）		
専攻 共通 科目		グローバルコミュニケーション（必修）	1	2
		アウトリーチセミナー（必修）	1	
		地域インターンシップⅠ、地域インターンシップⅡ、 国際インターンシップ、オープンセミナー	1 *1	
小計			8	
コ－ス 共通 科目		地域産業総合演習（必修）	2	
		地域振興特論 *2		
小計			2	
プ ロ グ ラ ム 科 目		プログラム科目（金型分野、鋳造分野、プログラム内共通科目、MOT科 目）		14
		金型・鋳造特別研究（必修）	8	
小計			22	
合計			32	

*1 2単位科目（地域インターンシップⅡ及び国際インターンシップ）については、必修と選択に1単位ずつ充当できる。

*2 地域振興特論（2単位）は、プログラム科目単位として充当できる。

地域産業コース 地域経済総合プログラム

科目区分		授業科目	必要単位数	
			必修	選択
研究 科学 科目 共通 科目	総合	震災復興・地域創生	1	2
	イノベーション	物質機能創成特論、システム創成特論、先端生命科学特論、 情報通信技術実践特論、総合科学特論Ⅱ（留学生対象）	1	
	グローバル	多文化共生特論、グローバルエネルギー特論、 グローバル環境科学特論、総合科学特論Ⅲ（留学生対象）	1	
専攻 共通 科目	技法知科目	アカデミック英語（A2-LSRW）、アカデミック英語（B1-LS）、アカデ ミック英語（B1-RW）、アカデミック英語（B2-LS）、アカデミック英語 （B2-RW）、アカデミック日本語（A1）、アカデミック日本語（A2）、 アカデミック日本語（B1）、アカデミック日本語（B2）、アカデミック日 本語（C）		
専攻 共通 科目		グローバルコミュニケーション（必修）	1	2
		アウトリーチセミナー（必修）	1	
		地域インターンシップⅠ、地域インターンシップⅡ、 国際インターンシップ、オープンセミナー	1 *1	
小計			8	
コ－ス 共通 科目		地域産業総合演習（必修）	2	
		地域振興特論 *2		
小計			2	
プ ロ グ ラ ム 科 目		地域経済論特論（必修）	2	
		プログラム科目		12
小計			22	
合計			32	

*1 2単位科目（地域インターンシップⅡ及び国際インターンシップ）については、必修と選択に1単位ずつ充当できる。

*2 地域振興特論（2単位）は、プログラム科目単位として充当できる。

地域・コミュニティデザインコース 地域マネジメントプログラム

科目区分		授業科目	必要単位数	
			必修	選択
研究 科学 科目 共通 科目	総合	震災復興・地域創生	1	2
	イノベーション	物質機能創成特論、システム創成特論、先端生命科学特論、情報通信技術実践特論、総合科学特論Ⅱ（留学生対象）	1	
	グローバル	多文化共生特論、グローバルエネルギー特論、グローバル環境科学特論、総合科学特論Ⅲ（留学生対象）	1	
専攻 共通 科目	技法知科目	アカデミック英語（A2-LSRW）、アカデミック英語（B1-LS）、アカデミック英語（B1-RW）、アカデミック英語（B2-LS）、アカデミック英語（B2-RW）、アカデミック日本語（A1）、アカデミック日本語（A2）、アカデミック日本語（B1）、アカデミック日本語（B2）、アカデミック日本語（C）		
		グローバルコミュニケーション（必修）	1	
		アウトリーチセミナー（必修）	1	
		地域インターンシップⅠ、地域インターンシップⅡ、国際インターンシップ、オープンセミナー	1	*1
小計			8	
コース 共通 科目		地域・コミュニティデザイン総合演習（必修）	2	
		地域振興特論 *2		
小計			2	
プログラム 科目		プログラム科目		14
		地域マネジメント特別研究（必修）	8	
小計			22	
合計			32	

*1 2単位科目（地域インターンシップⅡ及び国際インターンシップ）については、必修と選択に1単位ずつ充当できる。

*2 地域振興特論（2単位）は、プログラム科目単位として充当できる。

地域・コミュニティデザインコース 防災・まちづくりプログラム

科目区分		授業科目	必要単位数	
			必修	選択
研究 科学 科目 共通 科目	総合	震災復興・地域創生	1	2
	イノベーション	物質機能創成特論、システム創成特論、先端生命科学特論、情報通信技術実践特論、総合科学特論Ⅱ（留学生対象）	1	
	グローバル	多文化共生特論、グローバルエネルギー特論、グローバル環境科学特論、総合科学特論Ⅲ（留学生対象）	1	
専攻 共通 科目	技法知科目	アカデミック英語（A2-LSRW）、アカデミック英語（B1-LS）、アカデミック英語（B1-RW）、アカデミック英語（B2-LS）、アカデミック英語（B2-RW）、アカデミック日本語（A1）、アカデミック日本語（A2）、アカデミック日本語（B1）、アカデミック日本語（B2）、アカデミック日本語（C）		
		グローバルコミュニケーション（必修）	1	
		アウトリーチセミナー（必修）	1	
		地域インターンシップⅠ、地域インターンシップⅡ、国際インターンシップ、オープンセミナー	1	*1
小計			8	
コース 共通 科目		地域・コミュニティデザイン総合演習（必修）	2	
		地域振興特論 *2		
小計			2	
プログラム 科目		地圏・水圏防災工学特論（必修）	2	
		プログラム科目		12
		防災・まちづくり特別研究（必修）	8	
小計			22	
合計			32	

*1 2単位科目（地域インターンシップⅡ及び国際インターンシップ）については、必修と選択に1単位ずつ充当できる。

*2 地域振興特論（2単位）は、プログラム科目単位として充当できる。

地域・コミュニティデザインコース 防災・まちづくりプログラム 1年制コース

科目区分		授業科目	必要単位数	
			必修	選択
研究 科学 科目 共通 科目	総合	震災復興・地域創生	1	2
	イノベーション	物質機能創成特論、システム創成特論、先端生命科学特論、情報通信技術実践特論、総合科学特論Ⅱ（留学生対象）	1	
	グローバル	多文化共生特論、グローバルエネルギー特論、グローバル環境科学特論、総合科学特論Ⅲ（留学生対象）	1	
	技法知科目	アカデミック英語（A2-LSRW）、アカデミック英語（B1-LS）、アカデミック英語（B1-RW）、アカデミック英語（B2-LS）、アカデミック英語（B2-RW）、アカデミック日本語（A1）、アカデミック日本語（A2）、アカデミック日本語（B1）、アカデミック日本語（B2）、アカデミック日本語（C）		
専攻共通科目		グローバルコミュニケーション アウトリーチセミナー	1	
小計			6	
コース共通科目		地域・コミュニティデザイン総合演習（必修） 地域振興特論 *	2	
小計			2	
プログラム科目		地圏・水圏防災工学特論（必修）	2	
		プログラム科目		12
		防災・まちづくり特別研究（必修）	8	
小計			22	
合計			30	

* 地域振興特論（2単位）は、プログラム科目単位として充当できる。

地域・コミュニティデザインコース 社会基盤・環境工学プログラム

科目区分		授業科目	必要単位数	
			必修	選択
研究 科学 科目 共通 科目	総合	震災復興・地域創生	1	2
	イノベーション	物質機能創成特論、システム創成特論、先端生命科学特論、情報通信技術実践特論、総合科学特論Ⅱ（留学生対象）	1	
	グローバル	多文化共生特論、グローバルエネルギー特論、グローバル環境科学特論、総合科学特論Ⅲ（留学生対象）	1	
	技法知科目	アカデミック英語（A2-LSRW）、アカデミック英語（B1-LS）、アカデミック英語（B1-RW）、アカデミック英語（B2-LS）、アカデミック英語（B2-RW）、アカデミック日本語（A1）、アカデミック日本語（A2）、アカデミック日本語（B1）、アカデミック日本語（B2）、アカデミック日本語（C）		
専攻共通科目		グローバルコミュニケーション（必修）	1	
		アウトリーチセミナー（必修）	1	
		地域インターンシップⅠ、地域インターンシップⅡ、国際インターンシップ、オープンセミナー	1	*1
小計			8	
コース共通科目		地域・コミュニティデザイン総合演習（必修） 地域振興特論 *2	2	
小計			2	
プログラム科目		社会基盤・環境工学特論（必修）	2	
		プログラム科目		12
		社会基盤・環境工学特別研究（必修）	8	
小計			22	
合計			32	

*1 2単位科目（地域インターンシップⅡ及び国際インターンシップ）については、必修と選択に1単位ずつ充当できる。

*2 地域振興特論（2単位）は、プログラム科目単位として充当できる。

人間健康科学コース 行動科学プログラム

科目区分		授業科目	必要単位数		
			必修	選択	
研究 科学 科目 共通 科目	総合	震災復興・地域創生	地域創生・産業振興特論、地域防災学特論、地域文化特論、総合科学特論Ⅰ（留学生対象）	1	2
	イノベーション	物質機能創成特論、システム創成特論、先端生命科学特論、情報通信技術実践特論、総合科学特論Ⅱ（留学生対象）	1		
	グローバル	多文化共生特論、グローバルエネルギー特論、グローバル環境科学特論、総合科学特論Ⅲ（留学生対象）	1		
	技法知科目	アカデミック英語（A2-LSRW）、アカデミック英語（B1-LS）、アカデミック英語（B1-RW）、アカデミック英語（B2-LS）、アカデミック英語（B2-RW）、アカデミック日本語（A1）、アカデミック日本語（A2）、アカデミック日本語（B1）、アカデミック日本語（B2）、アカデミック日本語（C）			
専攻 共通 科目	グローバルコミュニケーション（必修）		1		
	アウトリーチセミナー（必修）		1		
	地域インターンシップⅠ、地域インターンシップⅡ、国際インターンシップ、オープンセミナー		1	*	
小計			8		
コース 共通 科目	人間健康科学総合演習Ⅰ（必修）		2		
	人間健康科学総合演習Ⅱ（必修）		2		
小計			4		
プログラム 科目	プログラム科目			14	
	行動科学特別研究（必修）		8		
小計			22		
合計			34		

* 2単位科目（地域インターンシップⅡ及び国際インターンシップ）については、必修と選択に1単位ずつ充当できる。

人間健康科学コース 臨床心理学プログラム

科目区分		授業科目	必要単位数		
			必修	選択	
研究 科学 科目 共通 科目	総合	震災復興・地域創生	地域創生・産業振興特論、地域防災学特論、地域文化特論、総合科学特論Ⅰ（留学生対象）	1	
		イノベーション	物質機能創成特論、システム創成特論、先端生命科学特論、情報通信技術実践特論、総合科学特論Ⅱ（留学生対象）	1	
		グローバル	多文化共生特論、グローバルエネルギー特論、グローバル環境科学特論、総合科学特論Ⅲ（留学生対象）	1	
	技法知科目		アカデミック英語（A2-LSRW）、アカデミック英語（B1-LS）、アカデミック英語（B1-RW）、アカデミック英語（B2-LS）、アカデミック英語（B2-RW）、アカデミック日本語（A1）、アカデミック日本語（A2）、アカデミック日本語（B1）、アカデミック日本語（B2）、アカデミック日本語（C）		
	専攻共通科目		グローバルコミュニケーション（必修）	1	
			アウトリーチセミナー（必修）	1	
			地域インターンシップⅠ、地域インターンシップⅡ、国際インターンシップ、オープンセミナー		
小計				5	
	コース共通科目		人間健康科学総合演習Ⅰ（必修）	2	
			人間健康科学総合演習Ⅱ（必修）	2	
小計				4	
	プログラム科目		臨床心理学特論Ⅰ（必修）	2	
			臨床心理学特論Ⅱ（必修）	2	
			臨床心理面接特論Ⅰ（心理支援に関する理論と実践）（必修）	2	
			臨床心理面接特論Ⅱ（必修）	2	
			臨床心理査定演習Ⅰ（心理的アセスメントに関する理論と実践）（必修）	2	
			臨床心理査定演習Ⅱ（必修）	2	
			臨床心理基礎実習Ⅰ（必修）	1	
			臨床心理基礎実習Ⅱ（必修）	1	
			臨床心理実習Ⅰ（心理実践実習Ⅱ）（必修）	1	
			臨床心理実習Ⅱ（必修）	1	
			プログラム科目		
			臨床心理学特別研究（必修）	8	
小計				34	
合計				43	

人間健康科学コース スポーツ健康科学プログラム

科目区分		授業科目	必要単位数		
			必修	選択	
研究 科学 科目 共通 科目	総合	震災復興・地域創生	地域創生・産業振興特論、地域防災学特論、地域文化特論、総合科学特論Ⅰ（留学生対象）	1	2
	イノベーション	物質機能創成特論、システム創成特論、先端生命科学特論、情報通信技術実践特論、総合科学特論Ⅱ（留学生対象）	1		
	グローバル	多文化共生特論、グローバルエネルギー特論、グローバル環境科学特論、総合科学特論Ⅲ（留学生対象）	1		
専攻 共通 科目	技法知科目	アカデミック英語（A2-LSRW）、アカデミック英語（B1-LS）、アカデミック英語（B1-RW）、アカデミック英語（B2-LS）、アカデミック英語（B2-RW）、アカデミック日本語（A1）、アカデミック日本語（A2）、アカデミック日本語（B1）、アカデミック日本語（B2）、アカデミック日本語（C）			
		グローバルコミュニケーション（必修）		1	
		アウトリーチセミナー（必修）		1	
		地域インターンシップⅠ、地域インターンシップⅡ、国際インターンシップ、オープンセミナー		1	*
小計				8	
コース 共通 科目		人間健康科学総合演習Ⅰ（必修）		2	
		人間健康科学総合演習Ⅱ（必修）		2	
小計				4	
プログラム 科目		プログラム科目			14
		スポーツ健康科学特別研究（必修）		8	
小計				22	
合計				34	

* 2単位科目（地域インターンシップⅡ及び国際インターンシップ）については、必修と選択に1単位ずつ充当できる。

グローバルコミュニケーション（必修・1単位）の受講について

1. 科目の概要

グローバルコミュニケーションは、地域創生に関わる諸問題をグローバルな視点から考える態度・能力を育成することを目的とし、国外の人々とコミュニケーションをとる能力を修得することを目標とします。受講者は、各自の専門分野・領域に応じて、地域創生に関わる問題をテーマとして設定し、テーマに沿って実施した国外の人々とのコミュニケーションを伴う実地研修や実地体験を単位として認定します。

例としては、国際学会での研究発表、教員が実施する国外視察・調査への同行、国内外で開催される研修プログラムへの参加等、多様な内容で取り組むことが考えられます。

履修にあたっては、国外の人々とのコミュニケーションを伴うどのような研修等を行いたいかを、まず受講者自身で主体的に考え、主任指導教員とも相談しながら研修計画を立ててください。

研修先については、学内外で募集される研修プログラム・イベント等を受講者自身でリサーチして、申し込む、あるいは、主任指導教員や所属プログラムが企画する研修等に参加する形でもかまいません。

研修期間については、実質1～2日程度で可とします。

研修終了後は、研修の内容・成果についてまとめた実施報告書を作成・提出する必要があります。また、主任指導教員の指示に従って、プログラムまたはコース等で開催される報告会において、研修の成果等について、発表してください。

2. 成績評価について

主任指導教員による事前・事後指導、研修の実施、実施報告書の提出、報告会等での発表を実施した受講者が、成績評価の対象となります。

研修での活動内容や受講態度、報告書の記載内容、報告会における発表等を総合的に判断したうえで、成績評価を行います。その際、地域創生に関わる諸問題をグローバルな視点から考えることを目的とし、国外の人々とコミュニケーションをとるために必要な知識・態度・能力の向上が見られたか、自分から積極的に国外の人々とコミュニケーションを図ろうとしたか、また、地域創生に関わる特定の問題について論じる際の考え方や文化の相違をきちんと理解できたかということが、評価のポイントとなります。

3. 受講の流れ

(1) 「グローバルコミュニケーション研修計画書の提出」

主任指導教員と相談のうえ、研修先及び具体的な研修目的・内容を決定し、「グローバルコミュニケーション研修計画書」を作成、主任指導教員の確認を受けてから、下記提出期限までに、学生センターA棟4番窓口提出してください。

提出期限：2026年6月26日(金)

上記提出期限までに、研修先が決まらない場合や次年度に実施予定の場合は、「グローバルコミュニケーション準備状況報告書」を提出してください。その後、研修先及び実施時期が決まり次第、遅くとも研修開始1ヶ月前までに「研修計画書」を改めて提出してください。

なお、「研修計画書」の提出後に、研修計画が変更・中止となる場合は、すみやかに学生センターA棟4番窓口に出してください。

「研修計画書」の提出をもって、履修申告として扱いますので、アイアシスタントからの履修申告手続きは不要です(ただし、アイアシスタントには履修科目として表示されません)

(2) グローバルコミュニケーションの実施

(3) 「グローバルコミュニケーション実施報告書」の提出

研修終了後1ヶ月以内に「グローバルコミュニケーション実施報告書」を作成し、学生センターA棟4番窓口提出してください(内容確認後、主任指導教員に送付します)。

なお、「実施報告書」の提出がない場合は、単位認定は行えませんので、必ず提出してください。

(4) 報告会等での発表

主任指導教員の指示に従って、プログラムまたはコース単位等で開催される報告会において、研修の内容及び成果等について発表する。

(5) グローバルコミュニケーションの単位認定

「実施報告書」の提出及び報告会等の実施後、主任指導教員が成績評価し、直近の学期末に単位を認定します。

4. 研修中の事故等に備えた保険への加入について

研修中の万が一の事故等に備え、自分のケガの治療や他人にケガをさせたときの補償、他人の財物を損壊した場合の賠償をカバーできる保険(学生教育研究災害傷害保険(学研災)と学研災付帯賠償責任保険(学研賠)の組み合わせ、または、同等の補償内容の保険(大学生協が扱う保険など))に必ず加入してください。

5. 海外渡航する場合の手続きについて

グローバルコミュニケーションで海外渡航する場合は、上記4に加えて、海外旅行（留学）保険にも必ず加入してください。

下記6により、地域創生専攻から渡航費等の経費支援を受ける場合は、大学の費用負担で、海外旅行傷害保険と留学生危機管理サービス（OSSMA サービス）への加入手続きを行います。受入先によっては、海外の保険を指定する場合や補償額に条件を付す場合もあります。保険内容を確認のうえ、必要に応じ、追加の保険加入を検討してください。

専攻から渡航費等の経費支援を受けない場合は、国際課に「海外渡航（留学・研修等）届」を提出してください（支援を受ける場合は提出不要）。手続きの詳細は、岩手大学国際交流HP（<https://www.iwate-u.ac.jp/iuic/japanese-student/training/procedure.html>）で確認してください。

6. グローバルコミュニケーションにおける渡航費等の経費支援について

グローバルコミュニケーションを実施する際に必要になる経費（渡航費・交通費・宿泊費）の一部について、地域創生専攻から支援します。

（1）経費支援の上限額

実施場所		上限額1	上限額2
日本	アジア地域以外	150,000円	225,000円
国外	アジア地域	100,000円	150,000円
日本国内		50,000円	

上限額2は、グローバルコミュニケーションと国際インターンシップを同じ国において1回の渡航で実施する場合の上限額です。

（2）経費支援の手続きについて

経費支援を希望する場合は、主任指導教員が旅費支給手続きを行いますので、旅行日程等が決まり次第、主任指導教員にご相談ください。

支援額には上限があるため、自己負担額が発生することがあります。

岩手大学の旅費規程にも基づき旅費計算しますので、必ずしも上限額満額が支給されるわけではありません。また、学会参加費・年会費等は支出できない経費もあります。

学内外の他の支援経費、奨学金等とは、重複して受給できない場合があります。

7. その他

- ・オンラインによる国際学会参加や留学生との交流会等も対象研修として認定します。
- ・地域創生専攻として、グローバルコミュニケーションの対象となる科目・研修等を企画・提供する予定です。詳細はアイアシスタントを確認してください。

インターンシップ科目（選択必修・1～2単位）の受講について

1. 科目の概要

地域創生専攻共通科目には、以下の3つのインターンシップ科目（選択科目：1～2単位）があります。これらの科目では、地域社会や国内外の様々な企業・機関・事業所で、現場体験を積むことによる人間的成長と社会的意識の向上を目的とします。

なお、社会人学生（有職の学生）で、企業等での研修が困難な場合は、指導教員に相談してください。

（1）地域インターンシップ …1週間（実質5日）以上・1単位

国内の各地域で行うインターンシップで、研修先の業務を通して、課題発見力・課題設定力の獲得、地域課題の解決に向けたビジョンを考える知識・能力の基礎を獲得するとともに、企業が抱える諸課題や産業界の取組の理解、学士課程で培った自らの専門分野と地域課題との関連性、大学が果たす産学官連携のあり方等について体験的に理解する。

（2）地域インターンシップ …2週間（実質10日）以上・2単位

国内の各地域で行うインターンシップで、研修先の業務を通して、課題発見力・課題設定力の獲得、地域課題の解決に向けたビジョンを考える知識・能力の基礎を獲得するとともに、企業が抱える諸課題や産業界の取組の理解、学士課程で培った自らの専門分野と地域課題との関連性、大学が果たす産学官連携のあり方等について体験的に理解する。また、2週間にわたる長期研修により、地域課題の発見をより深化し、複数企業等での研修を通じて複眼的かつ横断的な視点を得る。

（3）国際インターンシップ …2週間（実質10日）以上・2単位

海外の企業、NGO、大学等で実施するインターンシップで、研修先での業務を通して、その国（地域）が抱えている持続可能な社会づくりのための課題とその解決に向けた取り組みへの理解を深め、それをもとに日本の地域再生の実現に向けたビジョンを考えるための基礎的な知識・能力を習得する。

- ・インターンシップの研修期間は、複数日程・複数機関での合算を可とします。
- ・研究期間の半分を超える日数を、職場での就業体験に充てる必要があります。
- ・3週間（実質15日）以上の研修の場合は、地域インターンシップ と地域インターンシップ 両方として単位認定が可能です。

2. 成績評価について

主任指導教員による事前・事後指導、研修の実施、実施報告書の提出、報告会等での発表を実施した受講者が、成績評価の対象となります。

研修先からの「インターンシップ評価報告書」や「研修日報」による研修での活動内容や受講態度、実施報告書の記載内容、報告会における発表等を総合的に判断したうえで、成績評価を行います。

3. 受講の流れ

(1) 「インターンシップ研修計画書」の提出

主任指導教員と相談のうえ、研修先及び具体的な研修目的・内容を決定し、「インターンシップ研修計画書」を作成、主任指導教員の確認を受けてから、下記提出期限までに、学生センターA棟4番窓口へ提出してください。

提出期限：2026年6月26日(金)

上記提出期限までに、研修先が決まらない場合や次年度に実施予定の場合は、「インターンシップ準備状況報告書」を提出してください。その後、研修先及び実施時期が決まり次第、遅くとも研修開始1ヶ月前までに「研修計画書」を改めて提出してください。

なお、「研修計画書」の提出後に、研修計画が変更・中止となる場合は、すみやかに学生センターA棟4番窓口へ申し出てください。

「研修計画書」の提出をもって、履修申告として扱いますので、アイアシスタントからの履修申告手続きは不要です（なお、アイアシスタントには履修科目として表示されません）

(2) インターンシップの事前準備

インターンシップ申込時に、研修先から大学担当者の連絡先を求められた場合は、文末の担当者連絡先の内容を回答して構いません。

研修先から、インターンシップ覚書・契約書等の締結や大学からの依頼文書等の提出依頼があった場合は、学生センターA棟4番窓口にご相談ください。文書作成には、時間を要しますので、余裕をもって、申し出てください。先方の締切直前の対応はお断りする場合があります。

インターンシップに対応した保険に加入すること（詳細は下記4と5を参照）

インターンシップ開始前に、研修先に「研修日報」と「評価報告書」の確認・記入依頼を行うこと（詳細は下記8と9を参照）

(3) インターンシップの実施

(4) 「インターンシップ実施報告書」の提出

研修終了後1ヶ月以内に「インターンシップ実施報告書」を作成し、学生センターA棟4番窓口へ提出してください（内容確認後、主任指導教員に送付します）

なお、「実施報告書」の提出がない場合は、単位認定は行いませんので、必ず提出してください。また、研修期間中に記入した「研修日報」は、研修終了後に主任指導教員へ提出してください。

(5) 報告会等での発表

主任指導教員の指示に従って、プログラムまたはコース単位等で開催される報告会において、研修の内容及び成果等について発表する。

(6) インターンシップの単位認定

「実施報告書」の提出及び報告会等の実施後、主任指導教員が成績評価し、直近の学期末に単位を認定します。

4. 研修中の事故等に備えた保険への加入について

研修中の万が一の事故等に備え、自分のケガの治療や他人にケガをさせたときの補償、他人の財物を損壊した場合の賠償をカバーできる保険（学生教育研究災害傷害保険（学研災）と学研災付帯賠償責任保険（学研賠）の組み合わせ、または、同等の補償内容の保険（大学生協が扱う保険など））に必ず加入してください。

5. 国際インターンシップで海外渡航する場合の手続きについて

国際インターンシップで海外渡航する場合は、上記4に加えて、海外旅行（留学）保険にも必ず加入してください。

下記6により、地域創生専攻から渡航費等の経費支援を受ける場合は、大学の費用負担で、海外旅行傷害保険と留学生危機管理サービス（OSSMA サービス）への加入手続きを行います。受入先によっては、海外の保険を指定する場合や補償額に条件を付す場合もあります。保険内容を確認のうえ、必要に応じ、追加の保険加入を検討してください。

専攻から渡航費等の経費支援を受けない場合は、国際課に「海外渡航（留学・研修等）届」を提出してください（支援を受ける場合は提出不要）。手続きの詳細は、岩手大学国際交流HP（<https://www.iwate-u.ac.jp/iuic/japanese-student/training/procedure.html>）で確認してください。

6. 国際インターンシップにおける渡航費等の経費支援について

国際インターンシップを実施する際に必要になる経費（渡航費・交通費・宿泊費）の一部について、地域創生専攻から支援します。なお、地域インターンシップについては、経費支援はありません。

（1）経費支援の上限額

実施場所		上限額1	上限額2
日本	アジア地域以外	150,000円	225,000円
国外	アジア地域	100,000円	150,000円
日本国内		50,000円	

上限額2は、グローバルコミュニケーションと国際インターンシップを同じ国において1回の渡航で実施する場合の上限額です。

（2）経費支援の手続きについて

経費支援を希望する場合は、主任指導教員が旅費支給手続きを行いますので、旅行日程等が決まり次第、主任指導教員にご相談ください。

支援額には上限があるため、自己負担額が発生することがあります。

岩手大学の旅費規程にも基づき旅費計算しますので、必ずしも上限額満額が支給されるわけではありません。また、学会参加費・年会費等は支出できない経費もあります。

学内外の他の支援経費、奨学金等とは、重複して受給できない場合があります。

7. インターンシップ実施上の注意点

- ・研修先からのインターンシップ受入許可後は、真にやむを得ない事情がある場合を除き、インターンシップの辞退はしないでください。
- ・研修期間中の無断欠勤や中途放棄などは絶対しないでください。

- ・研修の効果上げるため、研修先の事業内容等は可能な範囲で調べたうえで、研修に臨んでください。
- ・研修中に知り得た一切の業務機密・個人情報・ノウハウ等は、研修期間中はもちろん、研修後も他に漏らしてはいけません。ただし、研究の一環として参加する場合は、利用・公表可能な情報等について、研修先に確認し、了承を得てください。

8. 「研修日報」について

研修期間中には、「研修日報」を作成し、研修先担当者に確認を依頼してください。

「研修日報」は添付の様式を使用してください。ただし、所属プログラムや研修先で指定様式がある場合はそちらを使用しても構いません。

なお、オンライン実施や国際インターンシップなど、研修先担当者に「研修日報」の確認を依頼するのが難しい場合、確認は省略可としますが、「研修日報」の作成は行ってください。

研修終了後、「研修日報」は主任指導教員に提出してください。

9. 「インターンシップ評価報告書」について

「インターンシップ評価報告書」は主任指導教員が成績評価する際の参考として使用します。

研修開始前までに、研修先担当者に以下の手順で、記入を依頼してください。

【手順】

「インターンシップ評価報告書」の様式を印刷し、学籍番号・学生氏名を記入する。

以下の送付先を記入した返信用封筒（切手貼付）を各自、用意する。

送付先：020 - 8550 岩手県盛岡市上田三丁目18 - 34

岩手大学学務部学務課専門教育グループ（地域創生）担当

研修先担当者に と を渡し、記入と返送を依頼する。

なお、研修先からの希望があれば、メール添付による電子媒体での返信でもかまいません。

「評価報告書」は添付の様式を使用してください。ただし、所属プログラムや研修先で指定様式がある場合はそちらを使用しても構いません。

なお、オンライン実施や国際インターンシップなど、研修先担当者に「評価報告書」の記入を依頼するのが難しい場合、提出は省略可としますが、代わりに研修内容等がわかる資料を提出してください。

10. インターンシップ情報及び実施例について

(1) インターンシップ情報について

学生支援課キャリア支援グループでは、就職・インターンシップの情報提供（岩手大学就職ナビ）、キャリア相談、ビジネスマナー研修などの支援を行っています。

岩手大学ウェブサイト「就職・キャリア」のページ

<https://www.iwate-u.ac.jp/career/students/index.html>

東北地域インターンシップ情報ポータルサイト「インターンシップ in 東北」

<https://tohoku-is.jp/>

リクナビ、マイナビ等の就職サイトや企業・団体ウェブサイトで募集しているインターンシップに申込する。

インターンシップの募集していない企業・団体については、人事担当者等に、直接連絡し、インターンシップの受入について交渉する。

(2) 地域インターンシップの実施例

- ・高度農林業プログラム...企業（建設業など）、森林組合連合会、森林総合研究所、官公庁（森林・環境関係）、国立研究開発法人農業・食品産業技術総合研究機構、岩手県農業研究センター、ビジターセンター、林業技術センター、農研機構など
- ・水産業革新プログラム...岩手県水産技術センター、上海海洋大学
- ・金型・鋳造プログラム...企業（製造業、自動車関係など）
- ・地域経済総合プログラム...JA（農業協同組合）
- ・防災・まちづくりプログラム...官公庁（防災関係）、大槌高等学校
- ・社会基盤・環境工学プログラム...企業（設計・建設業、電力会社など）、国立研究開発法人海上・港湾・航空技術研究所、国立研究開発法人日本原子力研究開発機構
- ・スポーツ健康科学プログラム...官公庁（健康・スポーツ関係）、体育協会

(3) 国際インターンシップの実施例

- ・ロッテンブルグ大学（ドイツ）...高度農林業プログラム関係先でのインターンシップ
- ・上海海洋大学（中国）...水産業革新プログラム関係先でのインターンシップ
- ・US-Japan Forum 研修（米国）...岩手大学外部連携機関提供プログラムへの参加
- ・海外のNGO、国際ボランティアへの参加

【地域創生専攻インターンシップ担当者 連絡先】

岩手大学学務部学務課
専門教育グループ
〒020-8550 盛岡市上田三丁目 18 - 34
TEL : 019-621-6307 FAX : 019-621-6065
E-mail : gsenko@iwate-u.ac.jp

インターンシップ研修計画書

記入日： 年 月 日

学 籍 番 号		氏 名	
所属プログラム			
主任指導教員名			

科 目 名	地域インターンシップ (国内1週間(実質 5日)・1単位) 地域インターンシップ (国内2週間(実質10日)・2単位) 国際インターンシップ (海外2週間(実質10日)・2単位)		
研修先の機関名			
研修先の住所			
研修先担当者	部署・職名		
連絡先	氏 名	TEL	
(分かる範囲で記入)	e-mail		
研修予定期間	年 月 日 ~ 年 月 日		
研修形態	対面実施 オンライン実施		
研修の目標			
研修の内容			

主任指導教員名 _____

(記名・押印または署名)

インターンシップ実施報告書

記入日： 年 月 日

学 籍 番 号		氏 名	
所属プログラム			
主任指導教員名			

科 目 名	地域インターンシップ (国内1週間(実質 5日)・1単位) 地域インターンシップ (国内2週間(実質10日)・2単位) 国際インターンシップ (海外2週間(実質10日)・2単位)
研 修 期 間	年 月 日 ~ 年 月 日 (日間)
研 修 形 態	対面実施 オンライン実施
研修先の機関名	
研修先の住所	
1. 研修の内容(300~400字程度) *どこで、何を題材に、どんな研修をしたか、 <u>研修日程を明確にしなが</u> ら簡潔に記入。	
2. 研修で得た成果(600~800字程度) *これからの地域創生を担う立場から、今回の研修で得た成果を簡潔に記入。	

* 1、2ともに字数をオーバーする場合は2ページになっても構いません。

研 修 日 報 (表 紙)

【学生記入欄】

学 籍 番 号		学 生 氏 名	
所 属 プログラム			
研 修 先			
研 修 期 間	年 月 日 (曜 日) ~ 年 月 日 (曜 日)		
備 考			

* 学生は記入した研修日報に、この表紙を付けて研修先に提出し、確認をもらうこと。

* 研修日報は必要部数コピーして各自印刷し使用すること。

【研修先担当者様 記入欄】

インターンシップ研修先ご担当者 様

本学大学院学生のインターンシップ受入について、誠にありがとうございます。

大変お手数ですが、本学生の研修日報をご確認いただき、問題なければ、下欄にご署名をお願いいたします。

部署・職名	氏名(署名)

研 修 日 報

学 籍 番 号		学 生 氏 名	
研 修 先			

研 修 日	年 月 日 (曜 日)	実 習 日 目
研修内容 (およその実施時間帯と研修内容がわかるように簡潔に書くこと)		
感想 (体験して得た知見・課題などを簡潔に書くこと)		

研 修 日	年 月 日 (曜 日)	実 習 日 目
研修内容 (およその実施時間帯と研修内容がわかるように簡潔に書くこと)		
感想 (体験して得た知見・課題などを簡潔に書くこと)		

* 研修日報は必要部数コピーして各自印刷し使用すること。

インターンシップ評価報告書

【学生記入欄】

学 籍 番 号		学 生 氏 名	
---------	--	---------	--

【研修先担当者様 記入欄】

研 修 先					
研 修 期 間	年 月 日 ~ 年 月 日				
出 欠 状 況	出席すべき日数	出席した日数	欠席した日数	遅刻した回数	早退した回数
	日	日	日	回	回
研 修 内 容					
事 業 者 所 見 (研修を通しての評価等)					
規 律 性	A ・ B ・ C ・ D (身だしなみ、就業時間、就業規則、担当者の指示等を守ったか)				【評価基準】 A : 十分できている B : 概ねできている C : やや不足している D : まったく不足している
積 極 性 ・ 自 主 性	A ・ B ・ C ・ D (受け身の態度ではなく、率先して自発的に取り組んでいたか)				
課 題 発 見 力	A ・ B ・ C ・ D (自ら問題意識を持ち、解決すべき課題を見つけようとしていたか)				

記入年月日： _____年____月____日

記入者 職名： _____

氏名： _____

オープンセミナー（選択必修・1単位）の実施について

1．講義の目標と概要

オープンセミナーは、専攻共通科目、コース共通科目等で習得した能力を、さらに実践的に高めようとする意欲ある学生を対象に設けられた専攻共通科目（選択必修・1単位）です。

学生自らが地域創生に関わる課題を取り上げたセミナーを企画し、自ら報告者となって学内外に公開で実施するものです。ゲストスピーカーを呼ぶことも可能です。

セミナーの企画・準備に時間が必要なため、セミナーの実施（本番）は原則として1年次後期以降となります。

2．スケジュール

2026年

7月下旬まで	学生同士がオープンセミナーの企画を相談し、グループを形成
8月末	オープンセミナー申請書をオープンセミナー担当教員 （所属プログラム長）へ提出
9月下旬	オープンセミナー実施許可
10月上旬以降	オープンセミナー実施

2027年

1月20日（水）まで	オープンセミナー実施報告書（グループレポート）及び 個人レポート提出
3月末まで	オープンセミナー単位認定

* 上記はあくまで標準的なスケジュールです。オープンセミナーの実施時期等については調整可能ですので、随時ご相談ください。

3．講義の評価

（1）参加状況（50％）

セミナーの打合せ・準備および実施における参加状況

（2）総括レポート（50％）

4．経費

原則、オープンセミナーの実施に係る費用については、予算措置はありません。ただし、近郊からのゲストスピーカーを招へいする場合、交通費を支給することは可能です。予算に限度があるので、主任指導教員を通じて学務部へ相談してください。

5．その他

グループメンバーとして参加した地域創生専攻所属学生については、代表者と同様、オープンセミナーの単位が認定されます。地域創生専攻所属以外の学生については、オープンセミナーの単位は取得できません。

【参考資料】オープンセミナー履修について

オープンセミナーは地域創生専攻として新しい取組なだけに、イメージがつかみにくいかもしれません。以下にどのようなタイプや形式があり得るか、講義の進行プロセス等をイメージしやすいように解説しましたので、履修にあたって参考にしてください。

1. オープンセミナーのタイプ

(1) 自分たちが関心のあるテーマを調べて発表する

地域創生にかかわって、自分たちが関心のある課題について、自分自身で調べ、深めて、その成果を発表するセミナーです。

(2) 社会的に必要とされている知識や技術を伝える

地域創生にかかわる最新のトピックスや基礎知識、法律や制度、技術や技法等をわかりやすく伝えるセミナー・研修会です。

(3) 地域創生に関わって自分たちが面白いと思った活動や研究を紹介する

自分たちが面白いと思ったり、有益と感じた活動や研究をわかりやすく紹介するセミナーです。

上記以外にも、様々なタイプのセミナーがありうると思いますので、自分なりに考えてみてください。

2. オープンセミナーの形式

一般的にセミナーと言われるものには、次のような形式があります。

a. 講演型（話題提供型）

1つまたは複数の講演と、それに対する質疑応答で構成するタイプです。

ただし、「講演」というと、時間も長く、大きなテーマを扱うものというイメージがあるため、短めの発表を複数用意する場合には、「話題提供」という言い方をすることがあります。学生が企画するセミナーの場合は、どちらかと言うと「話題提供」の方がピッタリくるかもしれません。

複数の講演を行う場合、基調講演を設ける場合があります。当該セミナーの課題に対して、その背景となるような研究レビューや社会情勢を踏まえた総括的な講演で、その分野に造詣が深い学識者等が務める場合が多いです。

オープンセミナーでは、ゲストスピーカーを呼んで、文字通り「講演」をしてもらうこともできます。ただし、その場合でも、自分たちの企画の意図を講演者にしっかり伝え、自分たちが考えた「課題」に沿った演題や内容を依頼することが大切です。ゲストスピーカーに頼りきり、任せっぱなしのセミナーにならないように注意してください。

b. 講演 + パネルディスカッション型

講演（話題提供）の後に、パネルディスカッションを設けるタイプです。

パネルディスカッションでは、必ずコーディネーターを置き、複数の登壇者を用意します。登壇者は、講演（話題提供）者のほかにも、自由に選ぶことができます。パネルディスカッションの時間を設けることによって、セミナーのテーマ（課題）を多角的に深めることができます。た

例えば、聴衆が講演（話題提供）に対して聞きたいと思っていた質問や疑問を、パネルディスカッションのコーディネーターや登壇者が上手に拾い上げて議論を展開できれば、満足度の高いセミナーになります。

c．研修型（セミナー型）

参加者が関心のある分野・テーマについて、基礎的な知識や技術、最新情報や先進事例等をパッケージとして提供するタイプのセミナーです。

講演（話題提供）型が、どちらかと言えば、話し手（情報の提供者）側が調べたことや知っていることを中心に話題提供するのに対して、研修型は逆に聞き手（情報の受け手）側に立った内容・構成で話題提供するのが特徴です。より具体的・現場的・技術的な内容を提供すると言えばよいでしょうか。

d．ワークショップ型もしくは体験型

参加者自身が頭や身体を使って、何かを学んだり、体験したり、創り出したりするようなセミナーです。ワークショップは、まちづくりや政策立案、芸術・スポーツ、福祉・教育、環境保全等、あらゆる分野で取り入れられており、多様な手法が開発されています。

ワークショップと聞くと、難しい印象があるかもしれませんが、これまで岩手大学が提供してきた市民や子ども向けの講座や体験教室などは、すべてワークショップの範疇に入ります。実験やフィールド調査を一般市民に体験してもらうようなイベントも、ワークショップの一種です。

一方、まちづくり系のワークショップの場合は、一般的には、参加者を少人数のグループ（4～7人ぐらい）に分けて、共通のテーマでグループごとに話し合いやアイデア出しをしてもらい、最後に全体で意見やアイデアを集約するという手順を踏みます。

いずれの場合でも、グループワークの前に少し時間をとって、テーマに関する基本情報を提供することがあります。

以上の他にも、多様な形式のセミナーが考えられますので、挑戦してみてください。

3．講義の進行プロセス

（1）グループの結成

オープンセミナーは、原則として複数のコースやプログラムの学生2人以上によって企画・実行されます。なお、他専攻の学生を参画させる場合、他専攻の学生については、オープンセミナーの単位を修了要件に含められないのでご注意ください。

グループを組む受講生は学生自身で集めてください。その場合、受講生を集めるための公募要領等を事務所に依頼して掲示してもらうこともできます。文末に募集案内の書式例を掲載しましたので参考にしてください。

（2）課題の設定

オープンセミナーの企画に当たっては、何を目的にどのような内容のセミナーを行うかについて、おおよその構想を練ることが必要です。ある程度それが固まったら、セミナーの目的や内容を「課題」という形で簡潔に表現します。

地域創生は守備範囲が広いので、多様な課題を設定することができます。自分が関心のある分野・テーマで、課題を設定してみてください。以下、課題の例示です。

- 「人口減少下、地域コミュニティは生き残れるか？」
- 「超限界集落における高齢者支援はいかにあるべきか？」
- 「町の移住定住政策の成果と課題」
- 「いまこそ、子ども達にふるさと教育を！」
- 「東北地方でインバウンドは期待できるか？」
- 「三陸縦貫道開通による光と影」
- 「鳥獣害に悩む農山村の現実」
- 「巨大防潮堤は必要だったか？」
- 「東日本大震災の復興政策を検証する」
- 「東日本大震災大震災の復興で多重防御はどこまで実現できたか？」

(3) 教員とのマッチング

オープンセミナーは教員の指導のもとで、学生が主体的に実施します。自分たちの課題に見合った教員を探し、直接相談するか、適当な教員がわからない場合は、所属するプログラム長に相談してください。

いずれの場合でも、教員と課題について話し合い、共通理解を深めた上で、最終的に指導教員を確定してください。

(4) 企画の立案

課題と指導教員が決まったら、いよいよ本格的にオープンセミナーの企画を開始します。

手始めは企画に必要な情報の収集です。図書や論文やネット情報を集めるだけでなく、課題に造詣の深い研究者や実務者、地域住民等の話を聞くことも重要です。

企画案の立案に当たっては、随時指導教員からアドバイスを受けてください。

最終的な企画案には、少なくとも次のような項目を盛り込むことが必要となります。

主催：自分たちのグループが主催となりますが、自治体や企業、NPO、自治組織等との共催や後援があってもかまいません。

企画の趣旨：セミナーで扱う課題、企画の背景や目的・目標等を文章で記述します。

対象者：どういう人を対象に行うのかということです。対象者によってセミナーの内容やレベルは大きく違ってきます。

日時：セミナー当日の年月日と時間です。

場所：セミナーの開催場所です。

内容：セミナーの具体的内容をできるだけ具体的に書き込みます。

プログラム：セミナーの当日の次第です。たとえば、次のような感じですか。

【例1】話題提供+質疑

13:00~13:05	開会
13:05~13:15	趣旨説明
13:15~13:40	話題提供(1)+質疑
13:40~14:05	話題提供(2)+質疑
14:05~14:30	話題提供(3)+質疑
14:30~15:00	全体討議
15:00	閉会

【例2】講演+パネルディスカッション

(ゲストスピーカーを招待)	
13:00~13:05	開会
13:05~13:15	趣旨説明
13:15~13:55	基調講演(ゲストスピーカー)
13:55~14:15	話題提供(1)
14:15~14:30	話題提供(2)
14:30~15:25	パネルディスカッション
15:25	総括
15:30	閉会

【例3】ワークショップ

13:00~13:05	開会
13:05~13:20	趣旨および進め方の説明
13:20~13:40	テーマに関する話題提供
13:40~14:40	グループワーク(受講生がファシリテーター)
14:40~15:10	発表
15:10~15:30	全体討論・まとめ
15:00	閉会

(5) ゲストスピーカーの招聘

企画を詰めていく中で自分たちでは担当しきれない部分が明らかになった場合、あるいは初めから特定の専門家や実務者等の話を中心に据えたいという場合は、ゲストスピーカーを招聘することができます。ただし、ただゲストスピーカーを呼んで話をしてもらうためだけのセミナーとにならないように注意してください。

(6) オープンセミナー申請書の提出(様式有)

企画案がまとまったら、オープンセミナー申請書を提出します。8月末までにオープンセミナー担当教員(所属プログラム長)へ提出するようにしてください。

(7) 会場の確保

会場の確保は早めに行うことをお勧めします。対象者とおおよその人数が決まったら、企画案の詳細を詰める前に、会場を確保しておきましょう。ギリギリになると会場を取れない可能性があります。

会場についても、指導教員に相談することができます。なお、学内の講義室等を使用する場合は、学務部(学生センターA棟4番窓口)へ空き状況の確認等、相談してください。

(8) セミナーの告知

セミナーの告知は、遅くとも1ヶ月前までには行ってください。オープンセミナーは学外の市民や団体に開かれたものですから、早めの告知はとくに重要です。

(9) 事前準備

セミナーのプログラムの確認、配付資料の印刷、必要物品の準備、会場の事前設営(必要に応じて)、当日の役割分担の確認等に当たります。

当日の役割としては、会場設営、受付、来場者の誘導、セミナーの進行、登壇(話題提供やコーディネーター、パネリスト等)、記録、照明、講師対応等、様々なものがあります。人手が必要なので、もしグループのメンバーだけでは不足する場合は、手伝いを頼んでおいてください。

(10) 開催(当日)

役割分担にしたがって、当日の運営に当たります。セミナーの記録として、最低限来場者の人数把握が必要なので、参加者の受付を確実に行ってください。

(11) 事後処理

会場の片付け、借用物品の返却、講師や協力者等への礼状を忘れないようにしてください。

(12) オープンセミナー実施報告書(グループレポート)の提出(様式有)

セミナーの実施後、グループとして2週間以内に「実施報告書」を提出してください。文末に示した内容で、実施報告書を履修者全員で協力して作成・提出してください。

実施報告書はA4用紙、横書きとします。細かい書式は書式例の通りです。ここに示した項目を必ず盛り込み、セミナーの様子がわかりやすく伝わるように作成してください。

(13) 個人レポートの提出(様式有)

オープンセミナーの実施後に「個人レポート」を提出してもらいます。講義の評価に関わる重要なレポートですので、必ず提出してください。

様式は書式例のとおりで、セミナーで自分が果たした役割、貢献できた点、改善点、その他感想等を書いて提出してもらいます。このうち、自分が果たした役割については、「実施報告書」の記載と対応させて表形式で作成してください。

「個人レポート」の提出期限は、オープンセミナーの実施日から1ヶ月以内(実施日が土日・祝祭日の場合は、その次の平日)とします。

オープンセミナー申請書

年 月 日

申請者	代 表	学籍番号		コ ー ス	
		氏 名		プログラム	
		TEL		E-mail	
	メン バ ー	学籍番号		コ ー ス	
		氏 名		プログラム	
		学籍番号		コ ー ス	
		氏 名		プログラム	
		学籍番号		コ ー ス	
		氏 名		プログラム	
		学籍番号		コ ー ス	
氏 名		プログラム			
課題・テーマ					
企画の概要	目的、受講対象者、実施時期、セミナー実施までのスケジュール、話題提供者の予定、セミナーの内容などを記入してください。				
オープンセミナー指導 教員	本企画が採択された際は、助言・指導を行うことを了承します。 <div style="text-align: right;">(記名・押印または署名)</div>				

本申請書は、代表者が所属するプログラムのオープンセミナー担当教員（プログラム長）に提出すること。

オープンセミナー実績報告書（グループレポート）

（執筆項目のイメージ）

表紙

- ・ 題目：20xx 年度オープンセミナー・総括レポート
- ・ 課題：グループで取り組んだ課題を記載
- ・ 実施日：セミナーの実施日を記載
- ・ 提出日：レポートの提出日を記載
- ・ グループ：全員の氏名と各自の役割
* 簡潔に記載。
- ・ 指導教員：氏名（全員分）を記載。

本文

- ・ A 4 版、ワード形式、10.5 ポイント、40×40 行、余白（上下左右 20mm）
MS 明朝体（題目・小見出しはゴシック体）。枚数制限は特に設けません。

付録（任意）

- ・ A 4 版（または A 3 織り込み）で整理

本文に盛り込む内容

1. セミナーの目的と意義
2. セミナー実施までのプロセス
 - ・ 日付入りで履修学生の役割分担を含め詳細に記述。
3. セミナーのプログラム
4. セミナー当日の様子
 - ・ 当日の写真を交えながら、時間順に文章で当日の様子を記述。
5. セミナー参加者の感想・評価
 - ・ アンケートや当日の来場者の様子から総合的に記述。
6. セミナー実施結果
 - セミナーの成果と課題・改善点等を検証し、評価をまとめる。
7. セミナーの企画・実施に参加した学生の氏名と各自の役割を簡潔に記載。

付録：当日の配付資料、掲載された新聞記事ほか

オープンセミナー 個人レポート

年 月 日

学 籍 番 号		氏 名	
セ ミ ナ ー 等 の 名 称			
実 施 日	年 月 日	時 分 ~	時 分

開催したセミナーで自分が果たした役割等：

1．セミナーで自分が果たした役割・貢献できたと思う点

2．セミナーの実施に参画して得られた成果

3．今後に向けてのセミナーの改善点

4．その他(感想等)

* 1、2ともに字数をオーバーする場合は2ページになっても構いません。

アウトリーチセミナー（必修・1単位）の受講について

アウトリーチセミナーは、原則2年次に履修する必修科目で、学生が実施してきた研究や活動の内容を、広く学外に向けて口頭発表・ポスター発表等の方法で発信する取り組みを通して、専門分野に関する知見を地域の人々にわかりやすく伝える基礎的なプレゼンテーション能力、コミュニケーション能力を身に付けることを目標とした科目です。

コースやプログラムの単位で企画・実施される修士論文研究の内容を市民に公開する発表会や、研究室等の単位で企画・実施される地域活動を実施した市民向けの成果報告会等での発表を課題とし、研究室のゼミグループ等を単位に担当教員（指導教員等）やゼミ参加学生からの意見や評価を受けながらプレゼンテーション力および質疑の際のコミュニケーション力の向上を図り、発表会後も総括のための会議に参加し、担当教員からの講評を含む指導を受けます。

最後に、総括レポートを提出して授業が終了します。成績評価は、担当教員が履修学生のセミナーへの参加プロセス、発表会当日のプレゼンテーションの内容、総括レポートの内容を総合して行います。

アウトリーチセミナーの具体的な進め方については、担当教員（指導教員、プログラム、コースの担当教員等）から指示がありますので、それに従って履修してください。

アウトリーチセミナー総括レポート

（*これはあくまでも例示です。実際の記載項目等は、担当教員の指示に従ってください。）

コ ー ス		学籍番号	
プログラム		氏 名	

報告会の名称：

実施日：

報告タイトル：

1) とくに市民に向けて伝えようとした内容（200～300字程度）

2) 市民にわかりやすく伝えるため工夫した点・達成できなかった課題等（200～300字程度）

* A4 判 1 枚